

更新伝道

No.134

発行:更新伝道会

発行者 会長 佐野英二
 編集 編集委員 会
 委員長 岩本 聖史
 (通信先) 千六五〇〇三五
 中野区白鷺一四七一〇
 Tel 〇三(三三三三八)七九七三

【ジョン・ウエスレー回心記念日集会】

開会礼拝説教

「主イエスにあつて一つとなる」

ヨハネによる複音書十七章二一〜二三節

九段教会牧師 高田和彦



今宵の聖書テキストに(一つ)という言葉が目をつきます。「すべての人を一つにしてください…」に、彼らも一つになるために「わたしたちは主の教会であらうべきでしょうか? もちろん、主にあつてひとつとなることです。それは伝道するためです。口で言

うのは簡単ですが、現実には大変困難が伴います。わたしたちにとって伝道とは個人的なものではなく、教会全体でなされるべき使命でありましょう。ですから教会が一つになる時にはじめて力を発揮するので。

では、一つになるとはどういうことなのでしょう。主が「わたしが彼らにおり、あなたがたがわたしにいますのは、彼らが完全に一つとなるためである」わたしたち一人一人のうちに主が力強く生きて働かれていますことよってのみなされるということです。机の上での学びでは得られません。伝道とは生活であり、生き様そ

のものでなければなりません。その意味で教会とは建物ではありません。教会とはわたしであり、あなたです。そうです。教会とはわたしたちのことです。

求められるのは、主への愛と信頼に基づいた「従順」です。その従順の大きさによるのです。ある人が言いました。「主を信じるのにわたしたちに何の犠牲もいらぬ。主と共に歩むには少しばかりの犠牲が要る。しかし、主の弟子になるためにはわたしたちはすべてを犠牲にしなければならぬ。」

ところが服従を実現するには、わたしたち自身の努力を必要といたしません。あえて努力と言うならば、委ねる努力であり、それを実現するために祈り求める努力でしょう。

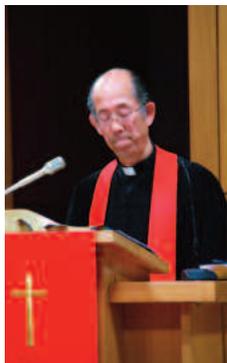
ところがわたしたちの祈りの実際はどんなものでしょうか? わたしたちは真つ先に自分の心配ごとや難題を神さまのところへ持って行く傾向があります。けれども、死の前夜のイエスさまがさげられた祈りを見ると、こういった事柄はイエスさまの第一関心事ではありませんでした。代わりに、イエスさまのお心は自分の弟子たち、そ

の弟子たちに従ってくる者たち、そしてご自分を信じない人たちまで、そして世界情勢全体にまで向けられていました。

今宵の御言葉は、死を前にしたイエスさまの祈りの一部分です。つまりイエスさま御自身のこの世の最後の晩でなされ、イエスさまはよりく広い視野に立つて祈るようにと教えておられます。その視野とは、①イエスさまが常にわたしたちと共にいるという約束と、②イエスさまの福音をのべ伝えるというわたしたちの使命です。これらを通して、イエスさまの最大の関心事は、すべての人々が自分たちを愛して下さる天の父なる神さまの愛を知るようになることでした。

イエスさまは更に、わたしたちの心が他の人々への愛で満たされ、またご自分の国で生きるという祝福にすべての人が与れるようにという願いであふれるようにと祈られました。

つまり、イエスさまはご自分においてわたしたちが一つになることを祈られたのです。わたしたちが互いの違いをすべて克服し、互いを隔てる壁をすべて打ちこわ



し、互いに調和して生きることが学べるように行動することを、イエスキスは祈られたのです。こう祈られた理由は、一致こそが神の国の最も力あるしるしであり、さらに「多くの人々が信じるようになるための道しるべである」ことを御存じだったからです。

これらは皆、このように高潔で聖なる目的です。どうしたらわたしたちは、特に日常茶飯事に追い回されているような時に、この期待に応えることができるでしょうか？イエスキスさまはおっしゃいました。「なによりもまず、神の国と神の義を求めなさい」。そうするならば、「これらのものはみな」加えて与えられる、と(マタイ六・三三)。

より大きな視野に立ちたいならば、毎朝時間を取って祈る事です。そして天の玉座に着かれたイエスキスさまに目を留めるならば、あなたの人生に天の視点が与えられることでしょう。

十八世紀、科学・産業の発展に伴って社会が俗化していたイギリスにあつて、英国国教会の司祭であつたジョンとチャールズのウエスレー兄弟は人心に篤い信仰を取り戻さんと伝道旅行を開始。しかし彼らの言動には国教会の枠に収まりきらぬ面があり、兄弟の没後、彼らの信仰復興運動はメソヂストという新たな教派に結実してゆくこととなります。

兄弟の大衆伝道で大いなる力を発揮したのが詩才に富む弟チャールズが作詩する讃美歌でした。当時の英国国教会で容認されていた会衆歌は詩編歌だけ。したがって歌詞には「イエス」も「十字架」も出てきません。しかも詩編歌は平板な旋律で恐ろしく遅いテンポで歌われており、歌の体をなしていませんでした。会衆賛美に明確な理想をもっていたジョンにとつ

ウェスレー
回心記念日集会
主題講演

「シンギング・メソヂスト」

歌いつつ歩まん

青山学院大学文学部史学科教授
日本聖公会東京教区聖歌隊指揮者

那須輝彦

譜例 1 HYMN.VIII.
On the Resurrection.

Re-joice, the Lord is King! Your Lord and King a-dore, Mortals give thanks and sing, and tri-umph. a-ver. more. Lift up your Heart. Lift up your Voice re-joice a-gain I Say re-joyce re-joyce, re-joyce, re-joyce a-gain, I Say, re-joyce.

て、これはゆゆしき事態でした。みずからが編纂した一七六一年の讃美歌集(後述)で、彼は「歌唱の指針」7項目を挙げています。①旋律をしつかり覚えよ。②楽譜どおり変えずに歌え。③全員で歌え。④意気揚々と歌え。⑤目立とうと吼えてハーモニーを壊すな。⑥遅くならぬようテンポ維持に留意せよ。⑦何よりも霊的に歌え。

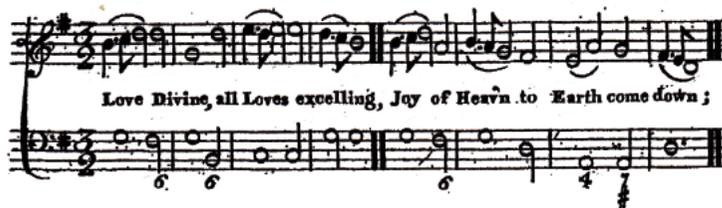
会衆が声を揃え、正確に意気揚々と、祈りに満たされながら神を賛美する——この理想の実現に強いこだわりをもっていたジョンは、どのような音楽を導入したのでしょうか。

譜例 2

A SONG in King Arthur.



譜例 3



譜例 4

Olivers!



こなしたからなのです。世風の「曲を見事に歌いなく、当時のメソデイスト讚美歌ならではの「生まれたのは、彼らが単によく歌を歌ったからではなく、当時のメソデイス

「シンギング・メソデイスト」という呼称まで生かれています。彼らが単によく歌を歌ったからではなく、当時のメソデイスト讚美歌ならではの「生

ジョンが最初に出版した讚美歌集(一七四二)は、モラヴィア兄弟団の讚美歌旋律などを借用したものでしたが、2作目の讚美歌集(一七四六)では、ロンドンの劇場で活躍していたドイツ人音楽家「エランプに作曲を依頼します。その実例が譜例1です。前打音はある、逆付点はある、トリルはあるで、讚美歌というより、威勢のいい独唱歌曲という感じですが。

実際、三作目の讚美歌集(一七四五頃)には、チャールズが最初からあるオペラ・アリアを念頭において作詩した例が認められます。「Love Divine, all loves excelling」。日本では「あめなる喜び」の訳で歌われているこの讚美歌、じつはイギリス・バロック音楽の華「パーセルのオペラ『アーサー王』のなかのアリア『美しき島 Fairest Isle, all isles excelling』のメロディを念頭におき、その歌詞を

パラフレイズして書かれたものなのです

(譜例2と3をご覧ください)。さすがにこれでは難度が高いと思つたジョンは、会衆が共用できるものをめざして、一七六一年にみずから讚美歌集を編纂します。しかしここにも先のパーセルの曲が(ごくわずかに簡素化しただけで)収録されていますし、国教会保守派から最も非難された曲は、じつは他ならぬこの讚美歌集に登場するのです。それが譜例4。旋律は激しく上下し、付点リズムや十六分音符の素早い動きで大いにスウィングしています(「讚美歌第二

編』に五四番として簡略版が収録されていますが、ゆっくり歌えるよう拍子を変えられています)。それもそのはず、遊園で使われていた舞曲に似た旋律があるのです。こうした個性の強い初期のメソデイスト讚美歌旋律は、やはり永続性を獲得するには至らず、譜1の曲は『讚美歌21』五七二番の「ゴヘンデルによる落ち着いた旋律に取って代わられ、譜3の讚美歌もパーセルの旋律では歌われなくなりまし

しかし当初、ジョンは会衆賛美

に情熱を注ぎ、難易度の高い曲を会衆に歌わせ

た。一七八七年、ある国教

会の聖職者はこうばやい

ています——説教で一人

が国教会から引き抜かれ

る間に、十人が音楽でか

どわかされてゆく——。

「シンギング・メソデイス

ト」という呼称まで生

まれたのは、彼らが単に

よく歌を歌ったからでは

なく、当時のメソデイス

ト讚美歌ならではの「当

世風の「曲を見事に歌い

こなしたからなのです。

回心記念日集会報告

準備委員 岩本聖史

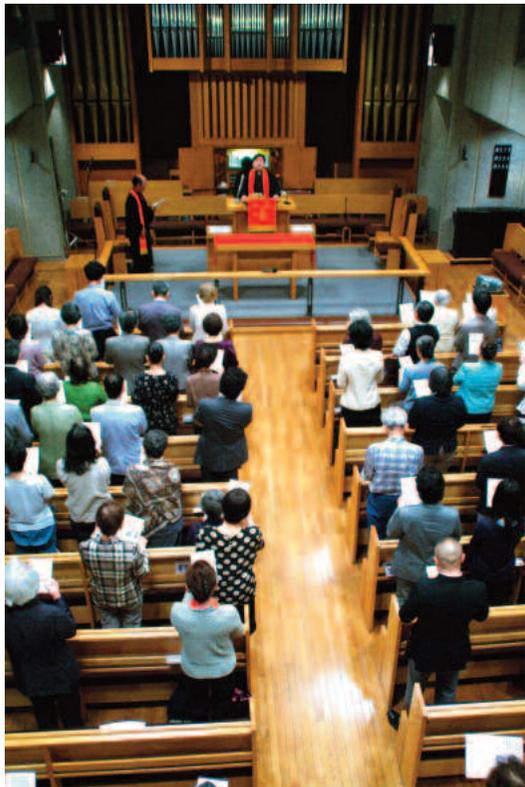
今年度のウェスレー回心記念日集会は、五月二十四日(木)午後六時より銀座教会で行われました。二八教会一二二名の参加が与えられ盛会を感謝致します。

まず高田和彦先生(九段教会)より、「主イエスにあつて一つとなる」と力強いメッセージが与えられました。

お茶会では、広尾教会に就任された米山恭平先生と奥様、九段教会に就任された高田和彦先生よご挨拶を戴きました。



その後「シンキング・メソジスト」歌いつつ歩まん」のテーマで青山学院の那須輝彦先生をお迎えしてご講演を戴きました。授業の後に駆けつけて下さった、先生はピアノを弾かれ、歌われ、講演して下さい、全身を使ってご講演下さいました。また、青山学院の学生もチェロ伴奏、歌と讃美の中に若い力を感じました。何よりも、讃美歌が時代を通してどのように変わっていったのが良くわかりました。お茶会の会場、案内、会場係としてご奉仕して下さいました銀座教会の兄弟姉妹には心より感謝をもってご報告致します。



二〇一一年四月一日より二〇一二年三月三十一日までに年会費、寄付金、献金、及び会誌代を受領した方々と、教会及び団体名を報告。

(概ね受付順、敬称略)

お名前の変換ができなかった方は、大変失礼ながらひらがなで記載させていただきました。また、旧字体をやさしい字体に変えてしまったものもあります。どうぞ、お許しください。

年会費

- 四月 犬飼護郎、松浦義夫、篠田真紀子、山口文恵、阿部志郎、
- 五月 山田喬夫、佐藤元洋、一瀬和子、朝位憲義、岸重子、斎藤始、川俣茂高橋はつ
- 六月 山北宣久、鎌田重子、森言一郎
- 七月 東方敬信、土屋慶紀、伊澤しのぶ、金井次夫、真鍋恵三、鶴飼栄子、野瀬千鶴子、小菅成幸、玉野保美、服部能幸、中村謙一、宮原亨、田中霞、倉形彰、宇留賀一夫、西村澄子、保々和宏、永吉章三、大橋輝美
- 八月 西田寛子、江藤園子、山口ふさ、伊藤地塩、土屋利子、林牧人、森研四郎、梅津裕美、和田洋子、千原創、長山信夫、大三島義孝、藤村和義、黒田さん二人分、真壁勝一、

真壁キヌ枝、有馬一宇、野村圭子、

島隆三、ジョージ・ギッシュ、中井

幸夫、広瀬千恵子、栗津安和、青木

研甫、清水光雄、松村勲、竹前ルリ、

安藤博子、宇都宮佳果、山田謙、片

山秀夫、牧野佳子、阿部正和、島崎

初日、三木信弘、深町正信、坂井賢

治、勝山健一郎、松永永任

九月 山内一郎、西川和子、菊池ト

ヨ、伊藤瑞男、松木田博

十月 角谷多美子、竹内郁夫

十二月 米山恭平、春川れいこ、竹前

ルリ、斎藤孝、中村謙一、鶴崎様、

辻川篤、

一月 岸憲秀、岸恵、富士松武子

三月 佐久本正志

法人会費

- 五月 九段教会、
- 七月 鳩山伝道所、熊本白川教会
- 八月 聖徒教会、本多記念教会、島村教会、佐原教会
- 九月 小樽教会
- 十二月 安藤記念教会、広尾教会、熊本白川教会
- 一月 西新井教会、銀座教会、阿佐ヶ谷教会、鳥居坂教会
- 二月 渋谷教会、頌栄教会、関西学院教会
- 三月 田浦教会、静岡教会

個人寄付・献金

四月 篠田真紀子、山口文恵

五月 一瀬和子、斎藤始、越智千鶴子

七月 伊澤しのぶ、金井次夫、真鍋恵

三、鶴飼栄子、小菅成幸、玉野保美、

中村謙一、倉形彰、宇留賀一夫、西

村澄子、保々和宏、永吉章三

八月 笠原康子、江藤園子、林牧人、

玉野保美、真壁勝一、島隆三、

大三島義孝、竹前ルリ、中村民男、

山田謙、山本和子、片山秀夫、三木

信弘、深町正信、上田創、吉富美幸、

松永永任

九月 山内一郎

十二月 功刀様、吉富美幸、野瀬千鶴

子、杉山忠弘、東方敬信、米山恭平、

高橋トキ、春川れいこ、片山秀夫、

竹前ルリ、山田和雄、伊藤久男、牧

野佳子、鶴飼栄子、斎藤孝、中村謙

一

一月 金井次夫、富士松武子、岸田紀

二月 小菅成幸、山田喬夫

法人寄付・献金

- 七月 熊本白川教会
- 十二月 武蔵豊岡教会、熊本白川教会、経堂緑岡教会、相模原教会、鳥村教会
- 一月 日下部教会、鎌倉教会、西新井教会、富山二番町、銀座教会、愛宕

町教会、阿佐ヶ谷教会、逗子教会

広尾教会、鳥居坂教会

二月 渋谷教会、大船渡教会

会誌代

五月 越智千鶴子

七月 伊澤しのぶ、金井次夫、小菅成

幸、杉山忠弘、保々和宏、伊豆那子、

熊本白川教会

八月 竹前ルリ、中村民男、深町正信

十二月 広尾教会、市川道、中江松

二、伊豆那子、熊本白川教会、橋本

淳

三月 松山栄光教会



会費納入と献金のお願

更新伝道会の活動は会員の会費と献金とで行われています。今年度の会費のご協力いただけますようお願いいたします。長年お忘れの方は今年度からでも結構です。ので、宜しくお願いたします。また、夏の大会に向けて、更新伝道会の必要が満たされますようにお祈りくださると幸いです。

2011年度一般会計、収支決算報告書及び2012年度予算

収入の部

項 目	2010年度決算	2011年度予算	2011年度決算	2012年度予算
会費（個人）	408,000	500,000	282,000	501,000
会費（法人）	260,000	300,000	260,000	300,000
会費計	668,000	800,000	542,000	801,000
寄付金・献金計	468,000	650,000	743,000	650,000
席上献金*	239,651	300,000	270,283	300,000
会誌代	23,000	30,000	19,000	30,000
大会(会費)	700,000	700,000	533,000	700,000
回心記念日集會会費	0	0	0	0
全体委員会会費	240,000	200,000	281,000	200,000
雑収入(貯金利息)	394	1,000	50,711	1,000
出版	21,500	50,000	29,550	50,000
小 計	2,360,545	2,731,000	2,468,544	2,732,000
繰越金	707,418	1,003,391	1,003,391	1,542,729
特別会計	0	0	0	
合 計	3,067,963	3,734,391	3,471,935	4,274,729

支出の部

常任委員会	220,497	200,000	126,140	200,000
諸委員会	16,380	50,000	19,980	50,000
全体委員会	508,730	700,000	690,725	700,000
大会	654,160	800,000	530,230	800,000
回心記念日礼拝	95,000	100,000	70,000	100,000
ウェスレー研究会	30,000	100,000	60,000	100,000
更新伝道会誌	159,910	200,000	284,605	350,000
問安・海外交流費	275,995	300,000	73,300	300,000
人事相談委員会	0	60,000	0	60,000
神学生奨励金	30,000	80,000	30,000	80,000
慶弔費	0	100,000	13,916	100,000
出版	0	50,000	0	200,000
事務通信費	23,150	50,000	13,780	50,000
雑費	50,750	30,000	16,530	30,000
予備費	0	914,391	0	1,154,729
小 計	2,064,572	3,734,391	1,929,206	4,274,729
繰越金	1,003,391	0	1,542,729	0
特別会計	0	0	0	0
合 計	3,067,963	3,734,391	3,471,935	4,274,729

2011年度特別会計

入金の部	2010年度決算	2011年予算	2011年決算	2012年予算
前年度繰越金	3,470,000	3,470,000	3,470,000	3,470,000
一般会計からの繰入		0	0	0
入金合計	3,470,000	3,470,000	3,470,000	3,470,000
出金の部				
一般会計への繰戻		0	0	0
次年度繰越金	3,470,000	3,470,000	3,470,000	3,470,000
出金合計	3,470,000	3,470,000	3,470,000	3,470,000

特別会計
 定期貯金の現在額
 定期貯金で8口
 3,470,000

2012年5月15日常任委員会

繰越金 (2012.3.31)

現金	362,558	* 席上献金の内訳	
振替貯金	625,694	大会席上献金	213,100
普通貯金	554,477	回心記念日席上	57,183
合計	1,542,729	計	270,283

会計 中井幸夫 西田寛子 会計監査 坂井賢治 黒田 毅

書記報告

常任委員会

(五月二十五日・出席二名)

- ・ウエスレー回心記念日集会の準備報告を受けた。
- ・大会の準備会報告。八月二十七日(月)午後二(二)八日(火)今年度は、十七号館を会場とする予定。講師・大隅啓三先生、布施秀雄兄。
- ・更新伝道会三役・会計会についての報告を受けた。これまでの会費の納入者、教会名を再確認。広く更新伝道会を知って戴くため、「更新伝道会案内」を作成。
- ・予算と会計監査報告を受けた。
- ・各委員会報告。
- ・五月十九日(土)青山学院で行われた「本多庸一先生百周年記念式典」の報告を受けた。

消息

九段教会：一年の無牧を経て高田和彦牧師(常任委員)を招聘され、去る六月一日就任式を行われました。

*なお、高田牧師が辞された立川教会には、梁在哲牧師(ヤン・ジェチヨル)が赴任されました。

広尾教会：二年四ヶ月の無牧を経て米山恭平牧師、米山結実牧師を招聘され、去る六月一日就任式を行われました。

次世代小委員会と訪問プロジェクトについて

去る二月の全体委員会で今後の更新伝道会について話し合われ、特に会員増強や新しい世代、参加が途絶えている教会などなど、様々な課題が挙げられ、三役を中心に検討されることとなりました。

そこで三役会からの提案をもとに、五月の常任委員会において、同委員会の一貫として、特に地方のメソジストの教会や学校との連携を視野に訪問するプロジェクトを立てあげました。早速、九月に活水学院を中心に長崎へ行くことが決められました。また、六月に行われたプロジェクトの打合せでは本多庸一(百)天百年のこの年をとらえ、弘前への訪問計画も話し合われた。

かつてメソジスト教会によって伝道された地域を再訪し、更新伝道会も「更新」されたいし、祈りを共有することも大切。失われたメソジストの精神を確認するときとされたい。更新伝道会には各地に委員がいるので、協力は必須なことである。また、委員でなくとも、本誌購読の方々からの情報をいただきたいし、訪問希望をお寄せいただきたい。従来の伝道協力による説教派遣も可能である。

訪問の様子は機関誌で報告する。
 なお、小委員会は大村栄委員長以下、岩本聖史、岸 憲秀、張田眞の各常任委員。

第41回更新伝道会大会

「伝道するメソジスト」

2012年 8月27日(月)午後～ / 8月28日(火)午前

会場：青山学院 本部礼拝堂、本多記念国際会議場(17号館)

講演Ⅰ

「メソジストの地方伝道」

大隅 啓三 牧師

(元金沢南部教会牧師、元中部教区議長)

講演Ⅱ

「カナダ・メソジストの日本伝道」

布施 英雄 氏

(顕栄教会信徒)

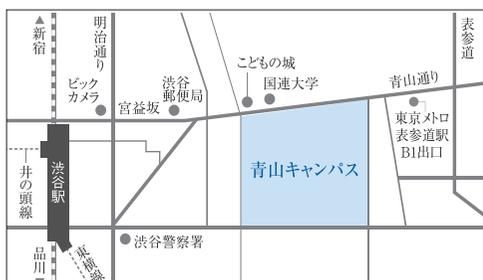
信徒による証し

銀座教会

阿佐ヶ谷教会



本多庸一



青山学院：〒150-8366 東京都渋谷区渋谷 4-4-25

参加費： 両日参加 5,000 円
 1日のみ 2,000 円
 夕食プラス 1,000 円

※遠方からの会員には応分の補助をいたします。
ご希望の方はお申出下さい。

お問い合わせ

小宮山剛 (逗子教会牧師、準備委員長) 046-873-8724 岩本聖史 (白鷺教会牧師) 03-3338-7973

主催 更新伝道会